

Canada

ダメ！ゼツタイ！とても怖い薬のはなし

日本でも問題となっている薬物汚染だが、カナダでは日本以上に深刻だ。興味本位で手を出すくらいなら、日本に帰ったほうが良い。



パーティーは楽しいが警戒心は忘れないで（写真は本文の内容とは関係ありません）

薬物のほうから近づいてくる？

日本では薬物と全く無縁だった人でも渡航すると生活環境が変わる。自分が興味を持っていなかったとしても、パブや学校などで親しくなった人やフラットのシェアメイト、またはその友人の誰かがやっているなど、薬物が身近な存在になってしまうかも知れない。

「タバコより害がない」「楽しい気分になる」「みんなやっているよ」などと罪の意識もなくマリファナなどを吸う者もいて、パーティーなどで勧めることがある。このように友達から誘われたのがきっかけで始める人もいるようだ。中には「薬をやっていると英語が上達する」などと吹聴している者もいるが、これは感覚が異常になり、テンションが上がって、普段は気が弱い人でも変な英語だろうと気にせず話せるような気分になることもあるためであり、逆に何もしたくない無気力な状態になりごろごろと過ごしたり、無口になったりする者もいる。タバコより

安全どころかマリファナは脳、肺、気管支、心臓に弊害が出ると言われて

いる。また「カナダではマリファナなどを少量所持しているだけなら合法だ。」という者がいるかもしれないがそれ

はウソ。医師が治療に必要と認め処方した場合のみ一部の薬物を購入することができるが、それ以外で所持しているのは違法である。

そしてマリファナはもっと強い薬物への入り口になっていく事があるようだ。実際に薬物密輸、使用、所持で逮捕されたり、麻薬中毒者から暴行を受けたりする日本人もいて日本大使館や総領事館も注意を呼びかけている。

もし、薬を勧める人がいたらそのときはNo thanks, I don't do drugsとかI don't like drugsとはっきりと断ろう。中途半端な表現では「今はダメでも次ならいいのか」などと誤解を与える。英語でははっきり断らないと断ったことにはならないのだ。

飲み物への薬物混入に注意

飲み物に薬を混入されたという事例が報告された。

「その日はワーホリを終えて帰国する友人の送別会で日本人やカナダ人が大勢

集まっていた。しばらくして酔いが回った頃に配られた飲み物に薬が混入されていた。副作用の影響か、みんな気分が悪くなってしまいパーティーはおひらき。ふらふらしながらも部屋にたどり着くことができたが、パーティーに来ていたカナディアンが1人が日本人の女の子たちを狙ってやったことらしい。具合が悪くなってしまった女の子に送ると執拗に迫っていたと後になって聞いた。友人の友人として何度か顔を合わせていたので信用してしまった。もし家の外で倒れてしまったら、そしてそれが真冬だったらと思うとゾッとする」(2005年帰国者・男性)。このような女性を暴行する目的で飲み物に薬物を混入させる“date-rape drug”が最近増加しているので注意が必要である。

市販の薬でも気をつけて！

麻薬以外の普通の薬でも気をつけないといけない。

カナダの薬事は日本のものとは違う。日本では医師の処方せんが必要な薬や市販されていない薬が薬局で買える場合もある。中には日本の薬より強いものもあり、体質に合わないで副作用がでてしまう人もいる。逆に日本では販売されている薬が現地では手に入らないこともある。自分の体質を正しく知り、飲みなれた薬を持っていくほうがよい。

(文・羽根田未来/監修・菅家亜紀)

参考資料

『薬物乱用防止マニュアルQ&A』(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター発行
在カナダ日本大使館、領事館ホームページ
<http://www.ca.emb-japan.go.jp/>
外務省海外安全ホームページ
<http://www.mofa.go.jp/anzen/>